

第3回 福井県LNGインフラ整備研究会 概要

日 時 平成25年12月16日(月) 10時30分～12時10分

場 所 ホテルフジタ福井 瑞雲の間

議 題 (1) 最新のLNG情勢について 講師：資源エネルギー庁
(2) LNG基地における冷熱利用について 講師：大阪ガス(株)
(3) LNG輸送船および受入港の概要について 講師：(株)日本海洋科学

意見交換概要

(1) 受入港について

委 員

日本海側にLNGの基地ができることは大変大事

拡張性のある基地を作ることで福井県の将来のLNG基地の重要性が増していく

委 員

福井港は水深10mくらいで川から砂の流入があり浚渫を継続的にする必要があり、
敦賀港は石炭船の受入があり調整が必要

講 師

日本海側の港湾でも太平洋側に比べそん色なく整備できることは検証済み

敦賀港は既存設備のままで風や波の条件に恵まれ、水深もあり、非常に有利な候補地

座 長

敦賀港を受入港とすることが適当とする意見が大勢

今後はまず敦賀における事業化について研究を進めたい

(2) 事業化の検討について

委 員

敦賀港は可能性が高いということであり、敦賀港を優先的に検討することが必要

各事業者には本県へのLNGインフラの整備について具体的に検討してほしい

県としてもどういった地面で考えるのか相談していく

国土を強靱化する上で、日本海側の整備が進むような支援を国も検討してほしい

委 員

受入港、基地、需要の3点について、関係者の認識を共有する必要がある

全体の青写真を早くつくるのが望ましい

委員

LNG火力発電、敦賀港が競争力を持つことが大前提
受入港は、大型船、多様な船が入る計画になれば競争力が増す
発電所には、用地、住民合意、送電線、将来的な拡張性などが必要

座長

次の研究会では、敦賀を前提に各事業者から具体的な検討結果の報告をしてほしい

(3) その他

委員

LNGの調達先を決定するのは運転開始2、3年前くらい
ロシアは有力な調達先だが、他と競う中で、一番安いものを選定することが大事

(4) 知事総括

敦賀、福井それぞれ立地条件が違う。敦賀は比較的土地が少なく、産業団地の確保に取り組んでいる。福井港は周辺に化学系企業が立地し、企業との連携がしやすい状況にある。福井県は電力会社の区域が隣接する境界にあり、協力、競争関係はどうか。敦賀の立地条件が優位という意見が大勢の中、今後どのようにスピードをあげて進めていくか考える必要がある。

(5) 座長まとめ

次回の研究会は各事業者の検討が進んだ段階で開催する
事務局は、研究会のメンバー追加、検討体制の強化を検討すること